

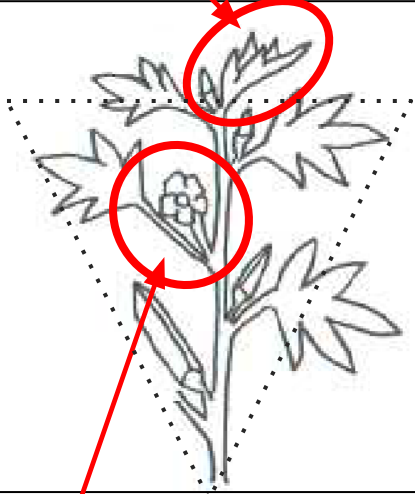
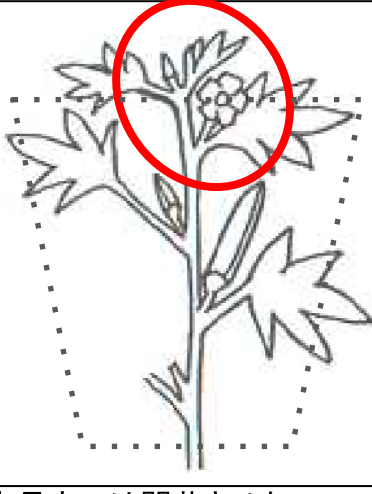
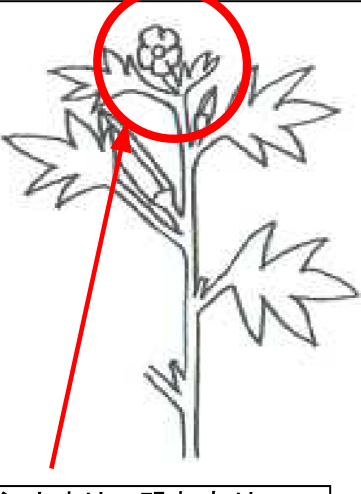
# オクラの栽培管理（8月以降）について

## 1 かん水・追肥

- かん水は、生育が旺盛な7～8月では4～5日ごと、気温が低下する9月以降は、10日ごとを目安に通路かん水を行う。  
※夏場の日中にかん水すると、かん水した水が高温となり、根傷みの原因になるため、夕方にかん水する。
- 化成肥料を使用している場合、追肥は7～10日おきに1回あたり窒素成分で3 kg/10a程度施用する。  
(計算例：肥料重量20kg×肥料中の窒素成分率10%＝窒素成分量2kg)

## ②草勢の調整

安定して収穫を行うため、以下の表を目安に草勢の調整を行う。  
草勢の判断基準：開花位置、生長点付近の葉の大きさ、展開葉の切れ込み具合

| 草勢    | 強い                                                                                                             | 正常                                                                                                         | 弱い                                                                                                        |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 特徴    | ○開花位置が生長点から3節目以下<br>○展開葉の切れ込みが浅い<br>(切れ込み数4以下)<br>○生長点の葉がかなり大きい(10cm以上)                                        | ○開花位置が生長点から2節目<br>○展開葉の切れ込みが適度<br>(切れ込み数5)                                                                 | ○生長点で開花<br>○展開葉の切れ込みが深い<br>(切れ込み数6以上)<br>○生長点の葉が極端に小さい(3cm以下)                                             |
| イメージ図 |  <div>下段で開花していると樹ボケの傾向</div> |  <div>生長点では開花させない</div> |  <div>心止まりの恐れあり</div> |
|       |                             |                        |                      |
| 要因    | 追肥・水が多い                                                                                                        | 追肥・水がちょうど良い                                                                                                | 追肥・水が足りない                                                                                                 |
| 対策    | 追肥・かん水                                                                                                         | そのままの間隔で                                                                                                   | 追肥の間隔を短く、速効性肥料を施用、乾燥していれば通路かん水                                                                            |
|       | 摘葉                                                                                                             | 果実の下節2枚残す                                                                                                  | 果実の下節2～3枚残す                                                                                               |

※9月以降は、草勢が弱りやすいため、摘葉を控える。

## ③長雨、台風対策

- 共通
- ほ場が冠水しないように排水対策（通路の溝切り、草刈りなど）を行う。
  - スレ果や奇形果など出荷できない実は、早めに摘果する。
- 長雨
- 降雨前に、殺菌剤（銅剤）の予防散布を行う。
- 台風
- 樹勢の回復を図るため、葉面散布を行う。
  - 畝肩に2～3 m間隔で支柱を打ち込み、マイカ線などを2～3段に分けて強く張り、オクラの倒伏を防ぐ。
  - 台風通過後は、倒伏した株を引き起こす。また、沿岸部のほ場では真水を散布して、オクラに付いた塩分を洗い流す。



#### ④病害虫対策

対象の病害虫に農薬登録のある薬剤で防除を行う。ほ場を良く観察し、薬剤防除が遅れないよう注意する。  
特に病気については、定期的（10～14日ごと目安）な薬剤散布を行うとともに、降雨前には銅剤の予防散布を行う。

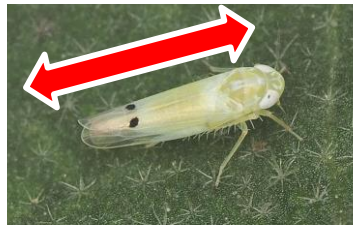
8月以降に発生する主な病害虫

**害虫：**アブラムシ、カメムシ、ハスモンヨトウ、オオタバコガ、フタテンミドリヒメヨコバイ

※フタテンミドリヒメヨコバイはオクラの葉を吸汁加害する。被害を受けた葉は、軽いちぢれや葉縁部の黄化が見られる。



写真 アブラムシ（体色は黒や赤褐色など様々）



体長約2～3mm



写真 フタテンミドリヒメヨコバイ（成虫と被害を受けた葉）

**病気：**葉すす病、うどんこ病、葉枯細菌病、果実黒斑病（市場病害）

※果実黒斑病：収穫時には斑点が発生していることはほとんどないが、収穫後の輸送中や店頭で果実表面に黒い斑点が発生する。

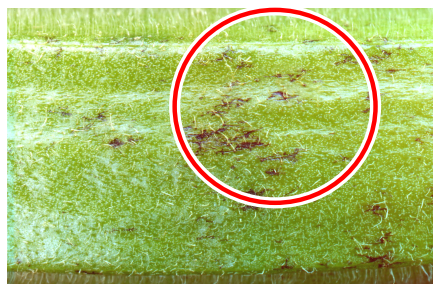


写真 果実黒斑病（左：全体、右：拡大）

#### ⑤その他

##### 【収穫時、収穫後の保管時の注意】

①収穫のハサミは、切り口の変色、腐敗を防止するため、良く切れる清潔なものを使用しましょう。

②出荷規格を参考に果梗の切り口の長さや角度を揃える。

③収穫した果実は「スレ果」、「キズ果」とならないよう丁寧に扱きましょう。

④ 品温が上がらないように収穫した果実は遮光シートなどで覆い、風通しの良い日陰で保管しましょう。

また、雨天時には果実の変色、腐敗を防止するため、吸水シートを使用して果実表面の余分な水分を拭き取る。

##### 【農薬の適正使用と散布時の注意】

・使用前には農薬のラベルを必ず確認し、使用基準を守る。（農薬の最新情報にも注意する。）

・使用時には必ず記録をつける（散布日、農薬名、濃度、散布量など）。

・隣接ほ場へのドリフトを防止するため、風のない時間帯（早朝）に散布する。噴口をほ場の外や上に向けて散布しない。  
また、トラブル回避のためにも、散布前には隣接するほ場のほ場主と連絡を取り合う。

・散布機などを洗浄した水は、河川や水路に流さず、ほ場内に捨てる。